

報告会

しらおいを元気に!

地域おこし協力隊を知っていますか?

活動報告会 11月30日(木) 18時

都市地域から町に移住し、日々奮闘する隊員たちの活動体験談をぜひお聞きください!

会場 白老コミセン 201

報告者 食と観光振興担当
森林ガイド担当
アイヌ文化振興担当
観光振興担当
観光振興担当
観光振興担当
文化芸術担当
スポーツ振興担当

鄭延雪さん
野田和規さん
乾藍那さん
安田裕太郎さん
高島勇揮さん
羽地夕夏さん
山岸奈津子さん
小箱駿太さん



昨年の様子

地域おこし協力隊は、過疎や高齢化の進行が著しい地方において、都市地域の人材を協力隊員として受け入れ、地域力の維持・強化に資する活動に従事してもらいながら、定住・定着へと結びつけることを目的としています。町では現在8人の隊員が活動しています。

問い合わせ先：企画財政課 企画統計グループ ☎82-2714

地域おこし協力隊通信



羽地夕夏さん(25)

観光振興担当(2年目)

私が運営している本屋「またたび文庫」について紹介します。

昨年4月、白老に本屋がないと聞いて、「ならば私がやってみたい!」と勢いで移住しました。ひとまず、好きな古本からやってみようと思いい、古物商免許を取得。6月から店舗をもたずに、イベント出店や間借り営業の本屋をスタートしました。観光協会やhakiさんなど、さまざまな場所でお店開きさせてもらいました。

今年1月からは、大町の専門店会だった物件を友人や町の人のご縁で店舗として借りることに。そこでは毎月いろいろなイベントを主催しています。地域

大町の「またたび文庫」店舗を改装中

の枠を越えた人とながりがりや、新しい風を感じてもらえる場所になりたい。そんな一心で、マルシェや作家さんのトークイベント、読書会、展示会、映画上映などを開催しています。10月からは、お店の改装を始めました。大工さんと一緒に、壁塗りや床張り作業を自分たちで行っています。私の目指す「まちの本屋」を作るべく、頑張ります!



知っておこう アイヌ文化

ニヌムとネシコ

イランカラブテ。深まりゆく秋の中で、町内の林を歩いているとオニグルミの実が落ちているのを目にします。落ちて時間が経ったオニグルミの実の外側の果皮が腐り、剥いてみると手が真っ黒になります。アイヌ文化では、オニグルミの実をニヌム、幹をネシコと呼び、ニヌムの外側の果皮やネシコの樹皮は黒色の染料として、植物の繊維を染めるのに使用します。例えば、ネシコで黒色に染めたオヒョウの繊維は文様入りのゴザを編む際に使われ、直線で構成されるモザイク状の美しい文様を形成します。また、ニヌムの果皮やネシコの樹皮にはユグロンという物質が含まれ、魚や他の植物などに対して毒性を示し、近寄させない性質があります。この性質をアイヌ民族は理解し、知里幸恵編訳『アイヌ神謡集』第11話には、カムイチェブ(サケ)がネシコの薬から出た濁った水を嫌い、泣きながら帰る様子が語られています。アイヌ民族は染料としてだけでなく、食用としてもオニグルミを利用します。秋になると地面に落ちたニヌムを採集し、干してから保存します。食べる時は囲炉裏の火で炙り、熱で自然に硬い皮が割れるのを待って刃物でこじ開け、中身の白い部分を食べます。



昨年度、体験交流事業にて活用する目的でチキサニがボロト休養林に植樹したオニグルミ

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301